

# 食品衛生情報 ふくおか

発行所  
公益社団法人 福岡県食品衛生協会  
電話 092-472-4803 FAX 092-472-6613  
e-mail:honbu3@fukuokaken-shokkyou.jp

令和3年2月22日(月) 2020年度第11号  
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2丁目 19-17  
トーカン博多第5ビル 705号  
ホームページ: <http://www.fukuokaken-shokkyou.jp>

## 飲食店における冬季の感染症・食中毒の予防法 (その2) (新型コロナ、インフルエンザ、ノロウイルス対策)

(出典：食と健康 2020年11月号)

### 個人が取り組むべき感染予防法

#### 感染リスクのある場所や場面を避ける

新型コロナウイルスは、人が密集した場所、換気の悪い密閉された空間、密接した状態での会話など、いわゆる「三密」が揃う場所で感染リスクが高まります。また、それらが揃わなくても、感染リスクがあります。

インフルエンザは、保育園・幼稚園・小学校など、子どもの集団生活での集団感染が多く、その後大人が感染するケースが多いとされています。市中感染では、感染経路が不明な場合も少なくありません。

ノロウイルスの感染リスクが高い場所は、公共のトイレです。冬季は、公共のトイレはノロウイルスに汚染されていると考え、適切に利用しましょう。

#### 飛沫感染の予防

飛沫を飛ばさない、受けないことが感染対策の基本ですので、マスクやフェイスシールドなどの着用はそのリスクを下げますが、効果は限定的です。他人との距離を保つ、大声を出さない、会話を短くするなど、飛沫感染の危険性を意識し、その感染防止につながる行動をとることが何より大切です。

#### エアロゾル・塵埃(じんあい)感染の予防

新型コロナウイルスは、密閉された室内など換気が悪い環境では、小さな飛沫(5μm以下)が空気中に浮遊し、エアロゾル感染を起こす場合があります。

また、ノロウイルスでも、おう吐物の残渣中のウイルスが空気中に浮遊し、それを吸い込んで塵埃感染を起こすことがあります。

そのため、これらの感染予防には、換気が極めて重要です。冬季は寒いため、換気がおろそかになりやすく、また、空気が乾燥していることが多いため、ウイルスの生存性や感染性が高まる時期です。

そこで、意識して換気に努めましょう。室内を加湿することも大切です。

#### 接触感染の予防

ノロウイルスの主要な感染経路は、手指などを介した接触感染です。ノロウイルスが付着した手で口を触ると感染してしまいますし、調理中に食品を汚染すると食中毒の原因になります。

また、新型コロナウイルスやインフルエンザウイルスでも、同様に接触感染が起こります。

#### ●手洗いと手指消毒

手指に付着した微生物の除去は、ハンドソープを用いた十分な手洗いが原則です。手洗い後にアルコール消毒を行う場合は、ペーパータオルなどで水分を十分に除去した後に、消毒用アルコールを用いましょう。会社や公共施設などの入り口に設置されている消毒剤も積極的に利用します。

ただし、ノロウイルスに対してアルコールはあまり有効ではないので、注意が必要です。

#### ●利き手の汚染に注意

口や鼻は利き手で触れることが多いため、利き手の汚染が接触感染に直結します。

# 飲食店における予防対策

## 一般的衛生管理の徹底

食品取扱施設では、HACCP に沿った衛生管理の制度化に伴い、その土台となる一般的衛生管理の徹底が求められています。一般的衛生管理のうち、施設・設備、機械・器具の保守・衛生管理や食品従事者の教育・訓練などは、特にノロウイルス食中毒予防の基礎となります。

## 施設の対策

### ●換気の徹底

### ●店内の環境の改善

客席のテーブルは飛沫感染予防のため、パーテーションで区切る、出来るだけ2m（最低1m）以上の間隔を空けて横並びで座れるように配置を工夫する、カウンター席は密着しないよう適度なスペースを空ける、レジとお客さまの間にアクリル板などの仕切りを設置するなど、飛沫感染のリスクを下げるよう、店内のレイアウトを改善します。

また、可能であれば、会計は電子マネーなどの非接触型決済を導入します。

## 従業員の対策

### ●感染症の基本知識の周知徹底と従業員の健康管理

### ●感染防止対策

作業中は原則として、マスクやフェイスシールド、必要に応じて手袋を着用し、こまめな手洗いを励行します。対人距離を確保するため、必要に応じて作業の方法や動線を見直し、休憩中にも対人距離の確保に努めるよう指導します。

マスクなどの着用が困難な場合は、他人との間隔を1m以上保持し、会話・発声時には2mを目安に距離を保ちます。マスクを着用しない場合、人との接触は15分未満に留めます。

また、トイレの使用後は、蓋を閉めてから水を流し、エアロゾルの飛散を防ぎます。

手指の消毒設備を施設の入口や内部に設置して手指消毒の頻度を高めます。ノロウイルスに対して、一般にアルコール系消毒剤は有効ではないので、手指消毒のみに頼らず、可能な限り手洗いも実践します。

### ●休憩場所・更衣室での対策

休憩場所や更衣室は感染リスクが比較的高いと考えられることから、利用者を制限し、可能な限りマスクを着用します。不要な会話は避け、短時間の利用を心がけ、換気にも注意を払います。

## 汚染物の処理・廃棄と清掃・消毒

### ●汚染物の処理・廃棄

おう吐で環境が汚染された場合、ノロウイルス感染の可能性を常に疑い、迅速かつ適切に処理を行います。すなわち、汚染物を可能な限り除去した後、煮沸水・熱湯水での加熱殺菌や1000ppm以上の濃度の次亜塩素酸ナトリウムでの消毒などで、残存するウイルスを確実に不活化します。

おう吐物、鼻水・唾液がついたゴミなどの廃棄物は、ビニール袋に入れて密封し、可燃ごみとして廃棄します。これらのゴミや汚染物は、マスク・手袋などを着用して取り扱い、作業後はハンドソープと流水で手洗いを行います。

### ●清潔な環境の維持とトイレの清掃・消毒

清潔な環境を維持することは、汚染した微生物の量を減らす、汚染したウイルスの生存性を下げる、消毒剤が有効に働くなど、重要な働きがあります。

人の手指が触る場所は、ウイルスに汚染されている可能性が高い場所です。消毒剤を適切に使用し、定期的に消毒を行います。

なお、トイレの衛生管理はノロウイルス感染の予防上、とりわけ大切です。特に、下痢などによりトイレ内が汚染された場合は、迅速に次亜塩素酸ナトリウムなどで消毒を行います。